

# 会議所10年の軌跡、 そして明日へ。

今年で創立90周年を迎える盛岡商工会議所。  
大正14年、全国で68番目の商工会議所として発足後、  
地元商工業者の経営サポートをはじめ、  
時代の流れを見据えながら  
さまざまな地域振興事業を展開してきました。  
節目を迎える今年、経済環境が大きく様変わりした  
この10年を振り返るとともに、  
今後、何に取り組むべきかを伺います。

## 中期ビジョンに基づいた この10年の活動

明治期から商業で栄えた町・盛岡。  
大正14年2月が公式発足ですが、そ  
れ以前の明治期から任意団体として、  
すでに盛岡商工会議所の活動は始ま  
っていました。以来、時代の流れを  
見据え、経済界としての役割を担っ  
てきたのです。

平成18年度からは、地域経済発展  
の一翼を担う商工会議所としての指  
針を明確にすべく、3カ年ごとに中  
期ビジョンを策定。それに基づく具  
体的アクションプランを掲げて取り

## 組んできました。

平成18年度から20年度までの第1  
期は、特にも大きな経済変動にゆさ  
ぶられた時代。平成20年9月のリー  
マン・ショックを契機にした  
世界的金融危機が起こり、日  
本経済は急速に落ち込みまし  
た。平成21年度から23年度の  
第2期でも変わらず厳しい経  
済環境が続く中、東日本大震  
災が発生。復興支援を新たな  
キーワードに加え、「東北・  
岩手の元気は盛岡から」との  
強い信念を掲げ、活動を展開



「少しでも多くの会員さんに加わっていただき、  
どんどん発言していただくことを望む」と津軽  
石事務局長

## 基本に立ち返って 次の10年に向かう今

第1期から3期までのアクション  
プランには、地域の産業振興に大き  
く貢献してきました。

「この10年では組織的にも変化が  
ありました。都南商工会、玉山商工  
会と合併が続いたことで運営規模も  
拡大しましたが、合併地域には独自  
に活動を進めて課題解決できるよう  
に各地域に運営協議会を置きました。  
また、郊外に大型店の出店が続いた  
頃でもあり、平成19年には盛岡市中  
心市街地活性化協議会を設立。行政  
とともにまちづくりに深く関わって  
きた10年間だったといえます」。

「この10年で、自治会とも深く関  
わるようになりました。経済の中心  
が盛南地区に移行し、今周囲を見渡  
せば高齢者が多く子どもが減り、街  
にも地元の商売が減ってきています。  
この変化をもとに戻すのは難しいこ  
と。神社や寺も多いこの界限なら、  
お城を含めて人が歩く流れをつくり  
観光客が来るまちにしていこうが  
現実的です。ここ数年、地元の青年  
部にも積極的な動きが見られますが、  
一地区だけでなく、近隣の町、行政、  
会議所とも協働してお互いを補いあ  
うことで一つの大きな発信力になる。  
事業者も生活者ですから自分の暮ら  
しを優先に考えるのは当然ですが、  
孫やその孫の時代まで考えて、次世  
代の道筋をつくっていかなくてはと  
思います。ILC誘致の話もありま  
すが、ならば外国人が移住しても生  
活しやすいまちのありかたをカタチ  
にしていこう等、会議所は先駆けて街  
としての選択肢をつくっていく必要  
もあるでしょう」。

やすい地域振興事業が注目されがち  
ですが、根幹となる会員サポートを  
しっかりと果たしてこそ成り立つもの  
です。小規模の事業主全体が強い体  
質をもつことで、盛岡市全体の経済  
力強化になります。会員増強ととも  
に、個別サービスによる会員事業主  
の体質強化バックアップに一層力を  
いれていきたいと考えます」。

## 地域の明日と 会議所への期待

そうした会議所の取り組み  
を事業主はどう見るのか、社  
団医療法人赤坂病院理事長の  
赤坂俊幸さんに伺いました。

「私どものような病院の会  
員は依然少ないですが、多種  
多様な業種が増えることで専  
門的知識がさらに集約されて  
いきます。そこで会議所が強  
いリーダーシップを示せば、



赤坂さんは、地域の若手にまともが生まれ、  
自主的な活動が増えていることに期待を寄せて  
います

多くの会員を招き入れ、その事業を  
バックアップすると共に、盛岡とい  
う土壌で事業を営む当事者の意見を  
一つでも多く吸い上げ、一緒に地域  
を盛りあげていく会議所をめざして  
いきます。明日の一步を、より多く  
の会員の皆さんと歩めるように。  
取材「SANSAN」企画編集委員会



盛岡商工会議所の成り立ちから節目ごとに発行した名鑑や記念誌。年々組織強化され、女性部や青年部などそれぞれに活発な活動が進められています



く寄与した事業が数多くあります。  
たとえば、南部鉄器の新市場開拓に  
向けて取り組んだJAPANブラン  
ド育成支援事業、四十四田工業団地  
の集団化、アロニア栽培と商品開発、  
地元食材の地産地消と食育をめざし  
た地域循環経済のしくみづくり等々。  
また、盛岡さんさ30周年の和太鼓  
演奏ギネス登録、「続・どんと晴れ」  
誘致の成功と、盛岡の魅力を外内に  
広く発信する一方で、子育て応援パ  
スポート事業や、盛岡で縁をむすぶ  
交流会の開催等、生活者が住みやす  
いまちづくりにも取り組んできまし  
た。

「かつては、行政や会議所支援を待  
つ傾向が強かったのですが、能動的  
に活動を進める事業者や商店街が着  
実に増えてきました」。

現在、盛岡商工会議所の会員数は  
3700ほど。会員数減少は全国的  
な傾向です。しかし、会員対象とな  
る事業者は1万3000ほどもあり、  
会員のメリットや会議所事業参加意  
義の周知が、これからの会議所に求  
められる課題ともいえます。

当会議所・廣田淳専務理事は、改  
めて原点を見つめ、組織強化運動に  
力を入れる重要性を説きます。

「会議所の活動の柱は2つ。基本は、  
経営相談や指導、セミナー等の情報  
提供、後継者育成などの会員サービ  
スです。そして2つ目が、地域経済  
活性化への貢献。カタチとして見え